



慶應義塾大学ビジネス・スクール

鈴木宏氏、金融商品を購入する

5

鈴木宏氏は、ある年の晩秋、大手証券会社のカウンターで、とある金融商品の契約書に今まさに押印しようとしていた。

東京世田谷に在住の鈴木宏氏は、上場企業の会社員である。大学での専攻は商学で、都内に本社のある重電メーカーに就職した。入社以来一貫して営業畑で電力会社やメーカーの工場に対して重電機器の販売を担当してきた。20代に一度、九州の支店に転勤しそこで3年ほど勤務した経験があるが、30歳になったころ東京の本社に戻ってきた。一度地方勤務をすると、しばらくは本社勤務が続くので、思い切って3年前に世田谷区内に3LDKの新築マンションを購入した。マンション価格の下落や低金利の恩恵もあって妻と二人の子供の4人家族には十分な広さであり、駅からちょうど良い距離で十分に満足していた。購入に際しては、入社以来毎月積み立ててきた財形貯蓄と定期預金から1000万円を崩し頭金に充て、のこりの3500万円を財形融資と当時金利の低かった住宅金融公庫でまかない住宅ローンを組んだ。現在その残債が3000万円ほどになっている。一方、将来に備えて、定期預金は一部残していたこともあり、その後も積み立ててきたので、700万円ほどの残高になっていた。

10

15

20

課長昇進

昨年、鈴木氏は、同期のトップをきって営業課長に昇進した。課長に昇進する前には、昇進試験や面接あるいは重要な案件があったため、なかなか仕事以外に目をやる余裕はなかったが、課長に昇進しそして2年目に入った今年あたりからすこし余裕が出てきた。マンションを購入したので、そんなに預金があるとは認識していなかったが、郵便貯金と2つの都銀に分けて預けてある定期預金をあわせると700万円になることがわかった。毎月の預け入れは、6万円程度とたいした額ではないが、課長昇進と

25

このケースは慶應義塾大学大学院経営管理研究科 余田拓郎によって作成された。本ケースの作成にあたって、大和証券株式会社マーケティング戦略室 嘉戸隆次長および吉田光太郎次長から情報をいただいた。ここに記して感謝の意を表したい。本ケースは、クラス討議の資料として作成されたものであり、経営管理上の適切または不適切を例示するものではない。本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話 045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp）。また、注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/> へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。

30

Copyright© 余田拓郎（2003年作成）